

# 美術

## I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

|   |  |
|---|--|
| <b>1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長</b> |  |
| 共通<br>観点  | (1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。    |
|   | (2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。                     |
| <b>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</b>                  |  |
| 共通<br>観点  | (1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。                             |
|   | (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。          |
|   | (3) 主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。                               |
| 教科<br>独自<br>観点  | (4) 対象や自己の内面などを見つめて主題を生み出し、発想や構想を基に材料や用具などを活用して創造的に表すことができるよう工夫されているか。 |
|   | (5) 見る人や使う人の立場に立って主題を生み出し、発想や構想を基に材料や用具などを活用して創造的に表すことができるよう工夫されているか。  |
|   | (6) 美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り、見方や感じ方を広げたり深めたりすることができるよう工夫されているか。           |
| <b>3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長</b>        |  |
| 共通<br>観点  | (1) 文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。                                     |
|   | (2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。                 |
|   | (3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。                     |

## II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

### Ⅲ 具体項目

美術

| 観点  | 発行者  | 開隆堂  | 光村  | 日文  |
|---|--|--|---|---|
| <p>1 での教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上</p> | <p>(1) 「教科の特質に「教育的な育成」に資する内容、構成と目指す人間像」の達成、「教育の目的」及び</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>表紙と連動する導入ページや各分野の学びを見通せるページを設け、生徒自身が3年間の学びをつなぐことができるよう題材を配列したり、関連付けて学習できるように他教科等の内容を示したりすることで、生徒が、主体的に創造活動に取り組むことができるよう配慮されている。</li> <li>災害から命を守るデザインや既存のものをつくり変えて再利用していくリノベーション、SDGsなどを取り上げることで、誰もが豊かに暮らすために必要な美術の働きを実感的に捉え、主体的に課題を解決していくための創造力を育成することができるよう工夫されている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現と鑑賞の活動を授業の流れに沿って構成し、対話を生み出す問いを示したり、生徒の制作過程を具体的に複数紹介したりするとともに、発達段階を踏まえて各題材を配列することで、生徒が、鑑賞と表現を関連させながら創造活動に取り組むことができるよう配慮されている。</li> <li>LGBTに関するポスターやいじめ防止缶バッジ、津波から命を守るデザインなどを取り上げることで、人権や防災等の身近な課題を捉えたり、美術の面から課題に迫る中で、生活や社会における美術の役割について考えを深めたりすることができるよう工夫されている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>3年間の学びを見通せるページや各分野の導入ページを設け、発達段階に応じて生徒の興味・関心に寄り添う題材を配列したり、各題材の中心発問を「造形的な視点」として示したりすることで、生徒が、造形と豊かに関わりながら創造活動に取り組むことができるよう配慮されている。</li> <li>平和や災害、SDGsに関するテーマの作品を取り上げたり、誰もが暮らしやすくなるためのデザインを対話を通して考えたりすることで、生活や社会における様々な課題を、美術の学びを生かして解決しようとする意欲を高めることができるよう工夫されている。</li> </ul>  |
|   | <p>(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める</p>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「デザインや工芸で学ぶこと」では、陶磁器デザイナー森正洋の「平形めし茶碗（波佐見焼）」が紹介されており、本県の伝統を生かした新たな創造への興味・関心を高めることができる。</li> <li>2・3年の「共に学ぶ美術」では、長崎市の野母崎で開催された「のもざき砂浜Tシャツアート展」が紹介されており、社会における美術の働きや共同制作の魅力について考えることができる。</li> <li>2・3年の「漫画の試み」では、長崎県出身の漫画家渡辺航の「弱虫ペダル」が紹介されており、漫画独特の表現効果について学んだり、「鳥獣人物戯画」「北斎漫画」等との比較鑑賞を通して、日本の漫画文化の魅力について考えたりすることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>2・3年の「日本の伝統工芸」では、日本を代表する焼き物の一つとして本県の「波佐見焼」が紹介されており、生活に息づく身近な伝統工芸への興味・関心を高めることができる。</li> <li>2・3年の「日本の世界文化遺産」では、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成遺産である「大浦天主堂（国宝）」が紹介されており、本県独自の歴史や文化と関連させて学びを深めることができる。</li> <li>2・3年の「地域の魅力を伝える」では、地域の特色を基に作成されたお土産等のパッケージが紹介されており、長崎県内各地域の特徴や魅力から豊かに発想・構想したり、デザインの役割について考えたりすることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>2・3年下の「日本の世界文化遺産」では、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成遺産である「大浦天主堂（国宝）」が紹介されており、本県独自の歴史や文化と関連させて学びを深めることができる。</li> <li>1年の「祭りを彩る造形」では、日本や海外の祭りの造形物が紹介されており、様々な文化が各地に息づく本県の祭りと比較することで、地域文化や造形の魅力に迫ることができる。</li> <li>2・3年下の「どこまで修復すべきか」では、世界や日本の文化財の修復について紹介されており、ふるさと長崎の様々な文化財の未来について、美術文化の継承等の観点から、他者との対話を通して考えを深めることができる。</li> </ul> |

### Ⅲ 具体項目

美術

| 観点   | 発行者                                       | 開隆堂   | 光村  | 日文   |
|--|---|---|---|--|
| <p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p> | <p>(1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得しているか。</p>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「人の姿・動き」では、人体の比率や骨格の説明とともに、クロッキーや立体表現における骨格や量感などの捉え方を示すことで、生徒が対象の特徴に注目しながら表現することができるよう工夫されている。</li> <li>巻末の「学びの資料」では、各学年で取り扱う表現技法や用具の使い方、制作手順について詳しく紹介するとともに、美術館の楽しみ方や美術を通して地域とのかかわり方などの発展的内容を示すことで、生徒が興味・関心を高めながら、発達段階に応じて知識・技能を着実に習得することができるよう工夫されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「自然の形や色を見つめて」では、自然物を色や形、重さや質感などの様々な視点で捉える具体的な方法を示すことで、生徒が対象の特徴に注目しながら表現することができるよう工夫されている。</li> <li>巻末の「学習を支える資料」では、表現技法や用具の使い方などについて紹介するとともに、同じ対象を様々な用具で表した例や、仏像表現を通して文化の流れを理解する内容を掲載することで、生徒が表し方を選択したり、文化を俯瞰的に捉えたりする感覚を養いながら、知識・技能を習得することができるよう工夫されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「じっくり見ると見えてくる」では、様々な材料や用具を使って表された作品を多数掲載することで、色や形、質感の違いなど、生徒が対象の特徴に注目しながら表現することができるよう工夫されている。</li> <li>巻末の「学習を支える資料」では、表現技法や用具の使い方、色彩の基本事項などについて詳しく紹介するとともに、パブリックアートや文化の継承などについて発展的に学べる内容を示すことで、生徒が興味・関心を高めながら、知識・技能を習得することができるよう工夫されている。</li> </ul> |
|  | <p>(2) 知識・技能を活用して課題を解決する表現力等を育成しているか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「あったらいいなを形に」において、デザイナーが実際に作品を生み出す際の考え方や、その具体例を紹介するとともに、表現題材の中で、制作過程における発想の広げ方の例を示すことで、生徒が豊かに表現することができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年の「ポスターで伝える」では、作家や生徒が制作した参考作品を多数掲載することで、生徒が、それぞれの色や形、レイアウト、キャッチコピーなどの工夫に着目しながら、伝わりやすい工夫について考えることができるよう配慮されている。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現題材の中で、参考となる生徒の制作過程や、その際の考えを詳しく紹介するとともに、2・3年の巻末資料に、さらに発想を広げるための思考ツールや対話の方法を学ぶページを設けることで、生徒が豊かに表現することができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年の「風景に思いを重ねて」では、多様な表現方法による参考作品を掲載することで、生徒が、色や形のもたらす効果やイメージに着目しながら、作者の思いや作品の魅力、工夫などを感じ取るることができるよう配慮されている。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の巻末資料に、発想・構想の手立てや作家のアイデアの出し方について具体的に紹介するページを設けるとともに、表現題材の中で、ポイントとなる発想の広げ方の例を示すことで、生徒が豊かに表現することができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年下の「今を生きる私へ」では、表し方が異なる作家や生徒の作品を、作者の言葉とともに数多く掲載することで、生徒が、色彩や構図、素材の使い方などの工夫に着目しながら、作品の魅力を感じ取るることができるよう配慮されている。</li> </ul>      |
|  | <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度を身に付けていることができるか。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>2・3年のまとめ「美術の力を生かして社会とかかわる」では、社会における美術の働きや作家の思いを紹介することで、生徒が、美術の学びを生活や社会と結び付けて捉え、主体的に学ぶことができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年の巻末資料「共に学ぶ美術」では、様々な共同制作の例を紹介するとともに、生徒が、共同制作を通して地域や社会と主体的にかかわることで、美術を愛好する心情を育むことができるよう工夫されている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「デザインって何だろう？」では、日常の中のデザインについて、2・3年では、地域とのつながりや美術の力、役割について取り上げることで、生徒が、美術の学びと実生活とをつなげて捉えることができるよう工夫されている。</li> <li>1年の巻頭では、生徒が「うつくしい！」をテーマに撮影した写真を、そのとき感じた言葉とともに紹介することで、対象の美しさを自分なりに捉え、その価値に気付くことができるよう工夫されている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>2・3年下の「人が生きる社会と未来」「笑顔が生まれる鉄道デザイン」「社会に生きる美術の力」では、実生活と美術との関連を紹介することで、生徒が、生活や社会の中で美術の学びを生かす意欲を高めることができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年上の「あなたの美を見つけて」では、日常生活にあふれる美しい造形の写真を多数紹介することで、生徒が生活と美術の関連に気付き、美術への興味・関心を高めることができるよう工夫されている。</li> </ul>                       |

## Ⅲ 具体項目

| 観点                                    |   | 発行者 | 開隆堂   | 光村   | 日文   |
|---------------------------------------|---|-----|---|--|--|
| 2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長 | (4) 対象や自己の内面などを見つめて主題を生み出し、発想や構想を基に材料や用具などを活用して創造的に表す |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「生命力を感じて」、2・3年の「自分と向き合う」「この場所、この場面」では、多様な表現形式による作品を多数掲載したり、主題の表し方を工夫した作品と作者の言葉を併せて紹介したりすることで、生徒が、主体的に主題を生み出すことができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年の「水墨画の世界」では、墨の濃淡を生かして描かれた雪舟の「天橋立図」などを鑑賞作品として掲載し、筆のみならず、スポンジや歯ブラシなどによる多様な表現技法や、その技法を活用した生徒作品を紹介することで、生徒が意図に応じて表し方を考え、創造的に表現することができるよう工夫されている。</li> <li>1年の「よみがえる材料」、2・3年の「形を研ぎ澄ませて」「場と形の響き合い」では、廃材などの色や形を生かして制作された作品や、集めたゴミで大作をつくる地域プロジェクトを紹介したり、実際に設置してある作家の作品や生徒作品を、主題などとともに掲載したりすることで、生徒が、社会における美術の働きを感じながら、自分らしい表現を追求することができるよう工夫されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「見つめ、感じ取り、描く」「風景に思いを重ねて」、2・3年の「思い出を形に」では、対象がもつよさ、美しさの感じ取り方や、様々な視点からの風景の捉え方を具体的に示したり、多様な表現形式による作品を掲載したりすることで、生徒が、主体的に主題を生み出すことができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年の「墨で描く楽しさ」では、墨のかすれやぼかし、にじみなどの様々な表し方が使われている伊藤若冲の「樹花雄鶏図」を鑑賞作品として掲載し、筆や刷毛による表現技法や作品の活用方法を紹介することで、生徒が意図に応じて表し方を考え、創造的に表現することができるよう工夫されている。</li> <li>1年の「材料に命を吹き込む」、2・3年の「環境とともに生きる彫刻」では、日用品などの特徴を生かして制作された作品を掲載したり、野外に設置してある作家の作品や、設置場所を具体的に考えて制作された生徒作品を紹介したりすることで、生徒が、社会と美術とのかかわりを感じながら、自分らしい表現を追求することができるよう工夫されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「なぜか気になる情景」「人間っておもしろい」、2・3年上の「動き出しそうな動物たち」では、主題を豊かに表現した作品を、作者の言葉とともに掲載したり、画材や素材、表現方法の異なる作品を紹介したりすることで、生徒が、主体的に主題を生み出すことができるよう工夫されている。</li> <li>1年の「墨と水の出会い」では、墨や水によって試した多様な表し方を使って抽象作品に表し、2・3年上の「水と筆を操る」では、表したいことを濃淡や線などの効果を考えながら描く活動を仕組むことで、生徒が意図に応じて表し方を考え、創造的に表現することができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年下の「イメージを追い求めて」「仲間との交流の中から」では、実際に設置してある作家の作品や、生徒が様々な材料でイメージを形にした作品を掲載したり、仲間と協力して描いた地域の壁画や、制作した傘で野外を美的空間に変える活動を紹介したりすることで、生徒が新たな価値に気づきながら、自分らしい表現を追求することができるよう工夫されている。</li> </ul> |

## Ⅲ 具体項目

| 観点   | 発行者  | 開隆堂  | 光村  | 日文  |
|--|--|--|---|---|
| <p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p> | <p>(5) と見る人や使うよう人の立場に立って主題を生み出し、発想や構想を基に材料や用具などを活用して創造的に表すこと</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「紙で作る」「焼き物をつくる」「木を暮らしに生かす」、2・3年の「明かりの形」「織る、編む、組む」では、紙や土、木、光など、様々な材料の特徴や魅力を生かした作品、表し方、また、その活用方法を紹介することで、生徒が、材料の特徴や使う人の気持ち、使用場面を踏まえながら、豊かに主題を生み出すことができるよう工夫されている。</li> <li>1年の「形と色彩のメッセージ」「模様のデザイン」「ロゴマークで印象づける」では、形や色彩の性質や身近な模様の美しさを生かした作品、対象の特徴や伝えたい内容をもとに表したロゴマークを紹介することで、生徒が、身近なデザインに興味・関心を高めながら、創造的に表現することができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年の「ピクトグラムとサイン計画」「ポスターで伝える」「誰にでもわかりやすく伝える」「パッケージで魅力を伝える」では、多くの人に情報を伝える魅力的な作品を、制作のヒントや手順とともに紹介することで、生徒が、伝達効果と美しさなどの調和を総合的に考え、創造的に表現することができるよう工夫されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「気持ちを伝えるデザイン」「生活の中の焼き物」「木と親しむ暮らし」、2・3年の「季節感のある暮らしを楽しむ」「あかりがつくる空間」では、様々な材料の特徴や四季の美しさを生かした作品を、他教科との関連とともに紹介することで、生徒が、使う人の気持ちや使用場面を考えながら、豊かに主題を生み出すことができるよう工夫されている。</li> <li>1年の「生活をいろいろ文様」「文字で楽しく伝える」「印象に残るシンボルマーク」では、自然や身近なものから生まれた文様作品、伝えたい内容や性質を色や形を工夫して表した絵文字、シンボルマークを、他教科との関連とともに紹介することで、生徒が、豊かに発想・構想しながら表現することができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年の「メッセージを伝える」「わかりやすく情報を伝える」「地域の魅力を伝える」では、多くの人に情報を伝える魅力的な作品を、具体的な制作方法とともに多数紹介することで、生徒が、伝達効果と美しさなどの調和を総合的に考え、創造的に表現することができるよう工夫されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「折って、切って、巻いて」「暮らしの中の木の工芸」「暮らしに息づく土の造形」、2・3年上の「季節を楽しむ心」「ジジジチカピカポッポッパツ」「つくって使って味わう工芸」では、様々な材料の特徴や四季の美しさを生かした作品を、仕上げ塗装の解説や作品の使い方などとともに紹介することで、生徒が、材料の特徴や使用場面を考えながら、豊かに主題を生み出すことができるよう工夫されている。</li> <li>1年の「広がる模様の世界」「文字っておもしろい」「印象に残るシンボルマーク」では、自然物の特徴を生かした模様の構成作品、イメージや情報を取り入れて魅力的に表した絵文字やシンボルマークを多数紹介することで、生徒が、活用方法などを考えながら創造的に表現することができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年上の「ひと目で伝えるための工夫」「その1枚が人を動かす」、2・3年下の「魅力を伝えるパッケージ」では、多くの人に情報を伝える魅力的な作品を、発想方法の解説とともに多数紹介することで、生徒が、伝達効果と美しさなどの調和を総合的に考え、創造的に表現することができるよう工夫されている。</li> </ul> |

## Ⅲ 具体項目

| 観点   | 発行者   | 開隆堂  | 光村   | 日文   |
|--|---|--|--|--|
| <p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p> | <p>(6) 美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り、見方や感じ方を広げたり深めたりすることができるよう工夫されているか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「伊藤若冲の世界」、2・3年の「浮世絵、庶民の楽しみ」「美術がつなぐ世界と日本」では、日本独自の美術表現や、日本文化が時代を越えて世界に広がっていることを紹介することで、生徒が、日本の美術文化への理解を深めることができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年の「ゲルニカで伝えたかったこと」「美術で世界と向き合う」では、戦争や災害に衝撃を受けた作家のテーマへの向き合い方や、その表現について紹介することで、生徒が、美術のもつ力や美術を通じた社会とのかかわり方について、学びを深めることができるよう工夫されている。</li> <li>美術史年表を日本、中国、アジア、西洋の四つの視点で捉え、年表内に西洋とアジア（日本）の美術の交流を紹介したコラムを設けることで、生徒が、各国の美術や文化の相違点や共通点に興味・関心を高め、国際理解や美術文化の継承と発展について考えることができるよう工夫されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「風神雷神―受け継がれる日本の美」、2・3年の「北斎からゴッホへ」では、関連性の高い作品を比較鑑賞できるようにすることで、生徒が、日本の美術文化の魅力を深く感じ取ることができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年の「ゲルニカ、明日への願い」では、観音開きの大画面で「ゲルニカ」を掲載し、作品の制作過程や当時の時代背景、ピカソ作品の変遷などについて詳しく紹介することで、生徒が、美術表現の力について考えたり、平和や人権への意識を高めたりすることができるよう工夫されている。</li> <li>美術史年表を日本、朝鮮、中国、世界の四つの視点で捉えるとともに、1年の「世界の仮面と出会う」、2・3年の「海を越えた文化交流」「北と南の民族衣装」などを設定することで、生徒が、各国や地域の文化を価値あるものとして尊重することができるよう工夫されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年の「屏風、美のしかけ」、2・3年上の「浮世絵はすごい」では、本物を見る感覚に近い鑑賞ができるようにすることで、生徒が、実感的に日本の美術文化への理解を深めることができるよう工夫されている。</li> <li>2・3年下の「あの日を忘れない」では、災害や戦争という衝撃的な出来事をテーマとした作品を、一つの題材の中で取り扱い、それぞれ解説とともに紹介することで、生徒が、美術がもつ力について考えたり、平和や人権への意識を高めたりすることができるよう工夫されている。</li> <li>美術史年表を日本、朝鮮、中国、西洋の四つの視点で捉えるとともに、1年の「祭りを彩る造形」、2・3年上の「手から手へ受け継ぐ」、2・3年下の「受け継ぐ伝統と文化」などを設定することで、生徒が、日本の伝統や文化のよさ、美しさを感じ取ることができるよう工夫されている。</li> </ul> |

### Ⅲ 具体項目

美術

| 観点   | 発行者                                       | 開隆堂  | 光村   | 日文   |
|--|---|--|--|--|
| <p>3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長</p> | <p>(1) とも文章は、適切分かりやす記述となつて、質・量</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒作品及び作家の作品について、解説や「作者の言葉」を設けることで、生徒が、作品に込めた思いや工夫などを手掛かりに味わいながら鑑賞したり、自らの創作活動に生かしたりすることができるよう配慮されている。</li> <li>各題材の主文では、文末を「～はありませんか」「～してみましよう」と生徒に寄り添う表記にしたり、捉えてほしい造形にかかわる視点を文中に多く盛り込んだりすることで、生徒が、豊かに創造活動に取り組むことができるよう配慮されている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒作品及び作家の作品について「作者の言葉」を設けることで、生徒が、それぞれの作品について主題と表現の意図、工夫などと結び付けながら鑑賞したり、自らの創作活動に生かしたりすることができるよう配慮されている。</li> <li>各題材の主文では、文末を「～してみよう」「～にはどうしたらよいだらう」という表記にしたり、一文ごと改行し、題材に導き入れるような簡潔な表記にしたりすることで、生徒が、主体的に創造活動に取り組むことができるよう配慮されている。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>主な生徒作品及び作家の作品について「作者の言葉」を設けることで、生徒が、書かれた言葉を手掛かりに作品を鑑賞したり、言葉が添えられていない作品に込められた思いや工夫を考えたりすることができるよう配慮されている。</li> <li>各題材の主文では、文末を「～ありますか」「～してみましよう」と生徒に語り掛ける表記にしたり、紙面の各所に「問い」を記載したりすることで、生徒が、学ぶ必要性を感じながら創造活動に取り組むことができるよう配慮されている。</li> </ul>   |
|  | <p>(2) 意欲を高めるため、写真、挿絵、図表など、効果的に、学習内容を</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>観音開き（A4ワイド判4枚）で見る横長の屏風絵図版や美術作品の原寸大図版は、小さな図版では気付きにくい表現の特徴がよく分かるため、生徒が鑑賞の視点を広げ、自身の表現に生かすことができる。</li> <li>各題材の冒頭に二次元コードを付し、作品解説資料や掲載以外の生徒作品例、用具の使い方動画、掲載作品を所蔵している美術館等ホームページへのリンク集を活用することで、生徒自らが、学びを深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>関係性が高い作品図版は、両面印刷を施すことで比較鑑賞ができ、作品上にトレーシングペーパーを施した図版は、吹き出しや遠近法を捉える補助線を描き込んで鑑賞できるため、生徒が、より実感的に作品への理解を深めることができる。</li> <li>随所に内容に関連する言葉を添えた二次元コードを付し、技法の説明動画や鑑賞作品の音声解説、様々な角度から立体作品を鑑賞できる動画、全国の生徒作品画像を活用することで、生徒自らが、学びを深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>美術作品や文化財の原寸大図版、実際に折り曲げ立てることができる屏風絵図版は、実物を体感しながら鑑賞できるため、生徒が、作品のよさや美しさを味わうことへの興味・関心を高めることができる。</li> <li>二次元コードを付し、掲載作品の鑑賞方法の紹介動画や技法の説明動画、角度や距離感を操作して作品鑑賞ができる立体画像、作品を拡大して鑑賞できる高精細画像を活用することで、生徒自らが、学びを深めることができるよう配慮されている。</li> </ul>  |
|  | <p>(3) 適切なレイアウトや紙質、製本等について、挿</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生用と2・3年生用の2分冊で構成され、一題材は、基本的に見開き2ページで掲載されている。また、各題材の冒頭に、育てたい三つの資質・能力が整理して記され、どの題材にも目立つように「学習のポイント」を端的に示すことで、生徒が自らの活動を確認しながら、主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。</li> <li>大きさは、横幅がA4判より2cm広いA4ワイド判で、見やすさを意識した文字を使用するとともに、単語や文節で途切れない改行や、美術用語解説、参考作品番号の記載をすることで、生徒にとって理解しやすくなるよう配慮されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生用と2・3年生用の2分冊で構成され、一題材は、基本的に見開き2ページで掲載されている。また、各題材の冒頭に、表現と鑑賞の各領域で育てたい資質・能力が生徒に伝わりやすい言葉で記され、どの題材も学習の流れを分かりやすく示すことで、生徒が表現と鑑賞を関連付けながら、主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。</li> <li>大きさはA4判で、小さな文字は、判別しやすいフォントを使用するとともに、図版同士の間を空けたり、罫線を引いて境界を明確にしたりすることで、生徒にとって理解しやすくなるよう配慮されている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生用と2・3年上、2・3年下の3分冊で構成され、一題材は、基本的に見開き2ページで掲載されている。また、各題材の冒頭に、育てたい三つの資質・能力が生徒向けの言葉で記され、どの題材にも「造形的な視点」に関する問いを示すことで、生徒が自らの気付きを大切にしながら、主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。</li> <li>大きさは、横幅がA4判より2cm広いA4ワイド判で、題材名や主文に見やすさを考慮したフォントを使用するとともに、行間を空けたり文字の背景色を変えたりすることで、生徒にとって理解しやすくなるよう配慮されている。</li> </ul> |